

ファッションの ちょっと・ウンチク

紫外線とウェア

紫外線は、日焼けや皮膚の老化のリスクを高めるため、近年ではファッションウェアにも紫外線防止機能が重視されています。衣服のUVカット性能は、繊維の種類、生地の厚さや密度、色、加工方法などによって大きく異なります。

繊維別では、一般にポリエステルが最も高い紫外線遮蔽性能を示し、次いでナイロン、綿の順となります。ポリエステル素材は他の繊維素材に比較して紫外線を吸収しやすい（通しにくい）性質を持っていて、肌まで紫外線が到達するのを防いでくれます。

また、織り目が密で厚い生地ほど紫外線を通しにくく、黒や紺などの濃色は白色や淡色よりも高い遮蔽効果を示します。逆に体感温度は白色や淡色が低く、濃色の方が高くなるということも知っておきましょう。



衣類の紫外線防止性能はUPFで表示されます。UPF15は約93%、UPF30は約97%、UPF50+は約98%以上の紫外線を遮蔽するとされています。

夏季や屋外活動では、UPF30以上の衣服を選ぶことが推奨されています。

このように、ファッションウェアはデザイン性だけでなく、健康を守る機能性も重要な役割を担っています。紫外線対策では、繊維の種類だけでなく、生地の構造、色、加工方法、UPF表示を総合的に確認し、用途に適した衣服を選ぶことが大切です。

絵画の中の洗濯風景

サン＝ピエール橋の風景



フランソワ・ゴージ(1862-1933)

この作品は19世紀末、フランスのトゥールーズに流れるガロンヌ川に架かるサン＝ピエール橋の河岸風景を描いています。

前景の河岸には、常設の広い物干し場があり、二人の女性が白いシーツを干しています。拡大してみると左側の女性は頭の上に畳まれたシーツを載せていることがわかります。

ゴッホの「アルルの跳ね橋」に見られるように、当時の洗濯風景のほとんどは川で行われています。特に、大都会パリのセーヌ川のように大量の生活雑排水が流れていた19世紀末には、川で洗濯することが禁止され「洗濯船」といわれる川に浮かべた共同洗濯場がつくられました。

ここトゥールーズを流れるガロンヌ河岸では、豊かな水量を利用した共同の洗濯場があったようです。現在では、トゥールーズはパリに次ぐフランス第二の大都市となりましたが、全体にゆったりとしたのどかともいえる生活風景として描かれています。

HD NEWS 2026 年7月 31 日隔月発行 第22 巻第4号通巻128号

くらし応援ニューズレター

HomeDry News

ホームドライニュース No.128



●絵画の中の洗濯風景：サン＝ピエール橋の風景
●ファッションのちょっと・ウンチク：紫外線とウェア
●繊維と服飾の物語：プリーツの起源
●なるほど納得！衣生活の知恵：
色柄物の天日干しは退色の危険があります

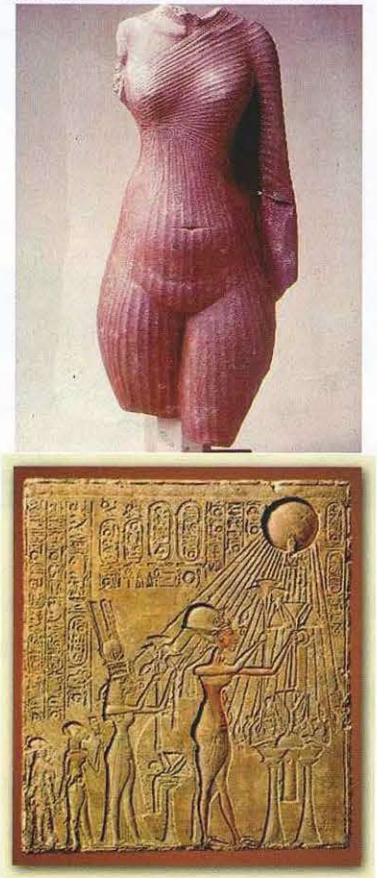
まごころクリーニング
ホームドライ

繊維と服飾の物語



プリーツの起源

パリのルーブル美術館に、古代エジプトの王妃ネフェルティティの像が展示されており、それはヒダがついた衣服を身にまとっています。



ネフェルティティ像と石板（ルーブル美術館蔵）

古代エジプトの信仰の対象は、太陽そのものではなく、「太陽の輝かしい光」だったという説があります。神に供物を捧げているファラオたちが描かれている石板にも太陽の光芒がしるされています。

そして、ファラオと王妃は神の代理人の象徴として太陽光線そのものを身にまとうことになります。酷暑のエジプトでは薄手の麻繊維（リネン）のシンプルな衣服だったようです。

しかし、麻繊維は現代でも耐久性を持ったプリーツ加工は大変困難なものとされています。麻繊維は、柔軟性が無いうえに水分を吸収すると硬く強くなるという性質を持っているためにプリーツのようにヒダづけしても、すぐに折り目が伸びてしまうからです。では、いったいどのようにしてヒダづけしたのでしょう。

麻の布地に手でヒダをつけて、板などで固定して長い間岩などの重しをのせて“寝押し”のようなことをしていたのではないかとの説あるようです。



エジプ・トアシュートの遺跡から発掘されたプリーツのあるチュニック（ルーブル美術館蔵）

このような困難な作業で加工したとしても、麻繊維の性質から洗濯するために水に漬けこんでしまうとプリーツは消えてしまうことになります。ですから、プリーツのついた衣服は、特別な儀式のときだけに着用され、汚れても洗われることはなかったと考えられます。

参考文献：田中厚三著「プリーツのルーツとプリーツ加工技術」。



なるほど納得！

衣生活の知恵

色柄物の天日干しは退色の危険があります

色柄物のおしゃれ着を洗濯して、晴天の日に太陽の下に干すと気持ちも晴れやかになります。

でも、太陽の紫外線は、衣類の染料にアタックして色褪せの原因になります。

街角の掲示物やポスターの色が、元の色に比べると色褪せてしまっています。衣類に使われている染料もまた、紫外線によって徐々に分解します。





衣類の日焼けは襟の裏側の色と日に当たる部分を比較するとわかりやすい

真っ白なポロシャツやTシャツの多くは、蛍光染料というもので、輝くような白さになるように染められています。この蛍光染料は、紫外線によって分解し、繊維本来の生成りの色にもどります。

着用中に汗をかきながら屋外にいると、汗に含まれている乳酸など老廃物の酸化作用と複合して、紫外線による染料の分解が進みます。襟周りや袖口の色が変わってしまうのはこのためです。